

〈大子町俳句ポスト大賞〉

【一般の部】

清流を跳ねて若鮎かがやけり

茨城県笠間市

奥村 雄治

大子町を貫流する久慈川。「清流」は、この久慈川の流れを凝縮したような言葉である。また久慈川と言えば夏は「鮎釣」が有名。ただし奥村さんがこの句で詠んだ「若鮎」は、春に川を遡る若い鮎を指す。季節感にも敏感な作品である。「跳ねて」という表現は、急流を勢いよく上っていく「若鮎」が勢い余ったかのように水面に出た瞬間を捉える。「かがやけり」は、小さいながら命の輝きに溢れた鮎の生命力を、余すところなく伝えていく。

【中・高生の部】

閉校の別れを惜しむ春の朝

茨城県久慈郡大子町

齋藤 一真

「春はあけぼの」というが、朝日が昇る頃の時刻は、春の良さを感じられる豊かな時間。齋藤さんの詠んだ「春の朝」は、それより少し経った登校後の時間帯だろう。しかし今日は、この慣れ親しんだ校舎が歴史に幕を下ろす、「閉校」という特別な日である。教室には皆揃っているが、友と別れ恩師と別れ校舎とも別れる。それでも「別れを惜しむ」この時間は、春の豊かさゆえに、この日の景とともにずっと作者の心に残り続けるだろう。

【小学生の部】

ほたるがりきれいな星と遊んでる

茨城県久慈郡大子町

小針 空桜

大子は水もきれいで空気も澄んでいる。小針さんがこの作品で使っている「きれいな」という言葉は、大子という町にとてもよく似合う。水も空気もきれいな生き物にとっても、こんないいことはない。まさに「ほたるがり」にぴったりのところなのだ。ほたるが出てくる季節は、夜の暗さがとても濃く感じられる頃でもある。ほたるの光と夜のきれいな星を見て、「遊んでる」と感じたのは、小針さんの心がウキウキしていたからに違いない。

大子町俳句ポスト 令和七年度年間入選句

とき 令和八年二月二五日(水)
ところ 大子町文化福祉会館「まいん」

《大子町俳句ポスト大賞》

(敬称略)

●一般の部(一九歳以上)

清流を跳ねて若鮎かがやけり

奥村 雄治

茨城県笠間市

●中・高生の部(一三歳～一八歳)

閉校の別れを惜しむ春の朝

齋藤 一真

茨城県久慈郡大子町

●小学生の部(六歳～一二歳)

ほたるがりきれいな星と遊んでる

小針 空桜

茨城県久慈郡大子町

《優秀》

●一般の部

滝音に心洗れ立ち尽くす

一木 賢

茨城県古河市

奥久慈の水の香りで夏はじめ

石神 楓

東京都足立区

久慈川の新緑青し生瀬滝

鹿島 泰宏

東京都調布市

春広ぐ一枚岩の大瀑布

柚木崎幸子

宮崎県宮崎市

凍る瀧月の光を閉じこめて

常田 悠生

愛知県岡崎市

奥久慈の山連なりて夏来たる

鈴木 忠誠

茨城県久慈郡大子町

万緑や八溝は遥か雲を抱き

石渡 静夫

茨城県龍ヶ崎市

山笑ふ八溝の空を雲流れ

佐藤 史郎

茨城県久慈郡大子町

凍滝や拳握れば力湧き

高橋 伸

茨城県笠間市

悠々と朝日を浴びて氷華流る

竹内すま子

岐阜県可児市

百段に雛の思ひ出並びおり

大森 正昭

茨城県水戸市

山間の狭き空にも秋の雲

秦 真紀

福島県東白川郡塙町

雲の峰八溝の山に湧き上がる

谷田部達郎

茨城県久慈郡大子町

奥久慈で生きる幸せ大根まく

小野瀬 保

茨城県ひたちなか市

佐川まさゆき

佐川まさゆき

茨城県日立市

●中・高生の部

山の中滝を色彩るせみの声

藤川 亨祐

東京都世田谷区

淀みなく岩肌を透かす四度の滝

小林 夏紀

千葉県浦安市

空見上げ春を感じる登下校

鈴木 茉生

茨城県久慈郡大子町

卒業式最後のチャイムと別れ告げ

藤田 里香

茨城県久慈郡大子町

春が来た山が輝く太陽で

石井 善翔

茨城県久慈郡大子町

●小学生の部

菜の花が丘一面に咲きほこる

関 凜音

茨城県久慈郡大子町

山々と夏が広がるやみぞさん

中山 友柊

茨城県久慈郡大子町

シガながれほうせきみたいにひかっている

長尾 凜

茨城県久慈郡大子町

あかとんぼはねがひかかってどこへいく

齋藤 夏希

茨城県久慈郡大子町

冬の川氷花が流れて音がなる

益子ナツミ

茨城県久慈郡大子町

大子町俳句ポスト 令和七年度第一回選句会入選句①

とき 令和七年八月二日(金)
ところ 大子町文化福祉会館「まいん」

● 一般の部(一九歳以上) 投句数 三五八句

(敬称略)

番号	俳句	氏名	住所
一	滝の音を心に響かせららんらん	高塚 祐希	茨城県つくば市
二	氷瀑に激しさ誓う若人よ	松谷 匠真	東京都江戸川区
三	滝音に心洗れ立ち尽くす	一木 賢	茨城県土浦市
四	奥久慈の水の香りで夏はじめ	石神 楓	東京都足立区
五	旅人の疲れ吹き飛ばす大瀑布	渡辺 岬花	千葉県長生郡長生村
六	夏の田の水清らかな大子町	星地 瑞輝	茨城県水戸市
七	滝壺に香りも降らせ山法師	佐灯 素秋	東京都足立区
八	久慈川の新緑青し生瀬滝	鹿島 泰宏	東京都調布市
九	奥久慈の滝をながめてしあわせに	添田 幸雄	神奈川県海老名市
一〇	春シヨールなびくバス停始発バス	川上須美江	茨城県常陸太田市
一一	春広く一枚岩の大瀑布	柚木崎幸子	宮城県宮崎市
一二	凍る瀧月の光を閉じこめて	常田 悠生	愛知県岡崎市
一三	冬八溝昼なほ暗き原生林	益子須美子	茨城県久慈郡大子町
一四	奥久慈の祭囃子の研して	藤田恵美子	茨城県久慈郡大子町
一五	万緑の奥久慈の空初燕	鈴木 忠誠	茨城県久慈郡大子町
一六	囀の中奥久慈の茶の育ち	加藤 申女	茨城県常陸太田市
一七	奥久慈の山連なりて夏来たる	石渡 静夫	茨城県龍ヶ崎市
一八	うぐいすのさえずりのどか日輪寺	奥野 成	広島県福山市
一九	校庭に声も高らか舞う桜	吉成 利弘	茨城県久慈郡大子町
二〇	清流を跳ねて若鮎かがやけり	奥村 雄治	茨城県笠間市
二一	花ふぶき木造駅舎の椅子かたし	笹川 明子	茨城県久慈郡大子町
二二	ろうばいの香りただよう福寿荘	藤枝百合子	茨城県笠間市
二三	秋日和土産に選ぶアップルパイ	秦 真紀	福島県東白川郡塙町
二四	月居の山越え阻む雲の峰	谷田部達郎	茨城県久慈郡大子町
二五	春めくや水勢確と四度の滝	照沼 朗男	茨城県那珂郡東海村
二六	万緑や八溝は遙か雲を抱き	佐藤 史郎	茨城県久慈郡大子町
二七	緑もゆ森で心もいやされる	長谷川友里	茨城県笠間市
二八	花筏何処の桜か久慈の川	小野瀬 保	茨城県ひたちなか市
二九	梅匂ふどの道行くも滝に出る	佐川まさゆき	茨城県日立市
三〇	貝風鈴駅舎の軒に音競ふ	池内ひろし	東京都世田谷区

大子町俳句ポスト 令和七年度第一回選句会入選句②

とき 令和七年八月二日(金)
ところ 大子町文化福祉会館「まいん」

● 中・高生の部(二三歳～一八歳) 投句数 四一句

(敬称略)

番号	俳句	氏名	住所
一	春風にただよう桜風呂にちる	山内 琉人	福井県敦賀市
二	青々と映える空と葉滝の音	猿谷 大成	群馬県安中市
三	淀みなく岩肌を透かす四度の滝	小林 夏紀	千葉県浦安市
四	春の川花びら散って桜色	安藤 涼花	茨城県久慈郡大子町
五	閉校の別れを惜しむ春の朝	齋藤 一真	茨城県久慈郡大子町
六	閉校式桜とともに涙落とす	山田 純平	茨城県久慈郡大子町
七	空見上げ春を感じる登下校	鈴木 茉生	茨城県久慈郡大子町
八	桜舞う皆と一緒に卒業た	谷田部慶飛	茨城県久慈郡大子町
九	卒業式最後のチャイムと別れ告げ	藤田 里香	茨城県久慈郡大子町
一〇	春が来た山が輝く太陽で	石井 善翔	茨城県久慈郡大子町

● 小学生の部(六歳～一二歳) 投句数 二二〇句

(敬称略)

番号	俳句	氏名	住所
一	名瀑と夏のかほりと笑顔の子	照沼 勝也	神奈川県横浜市
二	たきのちかくおんどけいはまよつてる	板垣佐奈子	千葉県印西市
三	うぐいすの声も消される滝の音	福井 響希	千葉県我孫子市
四	奥久慈の袋田の滝(ういごう)	板垣 晴弥	千葉県印西市
五	袋田の滝見て心清らかに	天野 尊斗	千葉県長生郡
六	菜の花が丘一面に咲きほころ	関 凜音	茨城県久慈郡大子町
七	ほたるがりきれいな星と遊んでる	小針 空桜	茨城県久慈郡大子町
八	なのはなのまわりにとぶよきいろいろいちょう	藤田 一叶	茨城県久慈郡大子町
九	入学式新入生がかわいいな	長山 煌翔	茨城県久慈郡大子町
一〇	きもちよくおそらにおよぐこいのぼり	菊池 徠煌	茨城県久慈郡大子町
一一	夏やすみたくさん本よむたのしいな	田辺 祐輝	茨城県久慈郡大子町
一二	山にいるミヤマクワガタかっこいい	井上 愛葉	茨城県久慈郡大子町
一三	きれいだなせんこうはなびおちないで	田所かなで	茨城県久慈郡大子町
一四	いえでみるうちあげはなびおおきいな	結城 華恋	茨城県久慈郡大子町
一五	ふうりんが鳴りひびいてるおちつくな	高橋 悠輝	茨城県久慈郡大子町
一六	山々と夏が広がるやみぞさん	中山 友柊	茨城県久慈郡大子町
一七	青空の光をあびて滝ひかる	齋藤 咲良	茨城県久慈郡大子町
一八	なつやすみカブトムシとり行きたいな	藤田 琉誠	茨城県久慈郡大子町
一九	夏の空わたあめふわりくじらぐも	和田 海翔	茨城県久慈郡大子町
二〇	ホタルとぶつについてはきえて光つてる	綿引彩花音	茨城県久慈郡大子町

大子町俳句ポスト 令和七年度第一回選句会入選句①

とき 令和八年二月 五日（水）
 ところ 大子町文化福祉会館「まいん」

● 一般の部（一九歳以上） 投句数 三三三句

（敬称略）

番号	俳句	氏名	住所
一	秋晴の流れ深まる愛の滝	末澤 百太	千葉県浦安市
二	新雪の袋田の滝白い息	池田 美幸	東京都港区
三	また来るね袋田の滝いい景色	笹川 慎司	千葉県松戸市
四	名瀑の音に騒めく虫の秋	内田 芝好	神奈川県横浜市
五	山笑ふ八溝の空を雲流れ	高橋 伸	茨城県笠間市
六	凍滝や拳握れば力湧き	竹内すま子	岐阜県可児市
七	袋田のたきのうしろのいわし雲	橘川 伊吹	東京都江東区
八	観瀑台山百合の香に包まれし	益子須美子	茨城県久慈郡大子町
九	粧ひて山穂やかとなりにけり	長沼 誠二	茨城県常陸大宮市
一〇	目を閉じて肌で感じる滝の音	安田 創	神奈川県藤沢市
一一	悠々と朝日を浴びて氷垂流る	大森 正昭	茨城県水戸市
一二	袋田の秋を楽しむ風なごみ	福村 富男	埼玉県春日部市
一三	紅葉晴心静かに滝の裏	桜井 眞子	茨城県水戸市
一四	ふるさとの姉健やかにシガ流る	松本 昭	茨城県常陸大宮市
一五	百段に雛の思ひ出並びおり	秦 真紀	福島県東白川郡塙町
一六	山間の狭き空にも秋の雲	谷田部達郎	茨城県久慈郡大子町
一七	奥久慈の山河に滝よ師の句碑よ	船木いち江	茨城県北茨城市
一八	久慈清流水豊か大子夏	照沼 朗男	茨城県那珂郡東海村
一九	りんご狩り重刀ひとつもらい受け	相馬 詩子	茨城県石岡市
二〇	蜜の降る林檎の里に降り立てり	佐灯 素秋	東京都足立区
二一	雲の峰八溝の山に湧き上がる	小野瀬 保	茨城県ひたちなか市
二二	奥久慈の新米を食む湯宿かな	池内ひろし	東京都世田谷区
二三	奥久慈で生きる幸せ大根まく	佐川まさゆき	茨城県日立市

大子町俳句ポスト 令和七年度第一回選句会入選句②

とき 令和八年二月五日(水)
ところ 大子町文化福祉会館「まいん」

● 中・高生の部(二三歳～一八歳) 投句数 五句

(敬称略)

番号	俳句	氏名	住所
一	山の中滝を色彩るせみの声	藤川 亨祐	東京都世田谷区

● 小学生の部(六歳～一二歳) 投句数 二八四句

(敬称略)

番号	俳句	氏名	住所
一	秋麗母と一緒に漕ぐペダル	高橋 秀太	茨城県石岡市
二	神無月夜のほしぞらきれいだな	大高 愛莉	茨城県久慈郡大子町
三	赤とんぼ水にうつって光ってる	清水 絢音	茨城県久慈郡大子町
四	きれいだな真つ赤にそまるもみじ寺	鈴木 颯太	茨城県久慈郡大子町
五	そらをみるしろいゆきだけふつてくる	松本 柚來	茨城県久慈郡大子町
六	赤とんぼ空にたくさん秋がきた	鈴木 将太	茨城県久慈郡大子町
七	寒い夜星はきらきらきれいだな	中村 れみ	茨城県久慈郡大子町
八	きれいな川シガがういてるゆきげしき	小林 武煌	茨城県久慈郡大子町
九	さむい日になわとびとんだよ二十九かい	大藤 そら	茨城県久慈郡大子町
一〇	シガながれほうせきみたいにひかっている	長尾 凜	茨城県久慈郡大子町
一一	すけすけのはねでとべるの赤とんぼ	栗原 海里	茨城県久慈郡大子町
一二	赤とんぼせなかに夕日すてきたな	和田 海翔	茨城県久慈郡大子町
一三	あかとんぼはねがひかかってどこへいく	齋藤 夏希	茨城県久慈郡大子町
一四	四度の滝カチカチこおってほう石だ	神永 莉夏	茨城県久慈郡大子町
一五	ザクザクといい音ひびくしもぼしら	小磯 悠隼	茨城県久慈郡大子町
一六	久慈川のキレイなシガが流れてる	荷見 龍輝	茨城県久慈郡大子町
一七	冬の川氷花が流れて音がなる	益子 ナツミ	茨城県久慈郡大子町
一八	しもやけを気合で治す寒げいこ	矢口 葉雫	茨城県久慈郡大子町
一九	春の声ほーほけきよと鳴いている	和田 結翔	茨城県久慈郡大子町
二〇	母みたいスズムシ歌うこもり歌	藤田 凜子	茨城県久慈郡大子町

大子町俳句ポスト総評

選者委員長 今瀬 一博

これまで私たちの先人と大子町の熱意によって回を重ねてきた「大子町俳句ポスト」もすっかり定着し、内容も充実してきていきます。今年も県内外の沢山の方々に投句を戴きました。概略を申し上げますと、応募総数、一二三〇句。内訳は一般の部が六九〇句、小学生の部、四九四句、中高生の部、四六句でした。特に今年度は、小学生の部の投句数が大きく伸び、結果的に一年間の総数も昨年度を上回りました。大子町を訪れる多くの方々とともに、内外の多くの小学生が学びの入門期に、俳句に触れ、自然に触れ人の心に触れる経験は、大変貴重で豊かなものだと思います。是非今後とも、子どもたちの心を豊かにし、表現力を磨く機会として俳句に親しんでほしいと思います。

このようにして集まった多くの作品を、私達選者は二回に分けて選句しました。一回目の選句が令和七年八月二十二日（金）、計六〇九句の中から六〇句を入選句としました。二回目が令和八年二月二十五日（水）、こちらは六二二句の中から四四句を入選句として選びました。二回の計は一〇四句で、これは応募総数の約八%ほどの厳選でした。この中から、最終的に大賞三句と優秀句二五句が決定したわけです。寄せられた作品は、実に大子町の各地で詠まれ、四季折々の風物を詠んだものから人の情や優しさ、感謝の心を詠んだ作品まで幅が広く、改めて大子という町の広さと豊かさと深さを実感できました。改めて作品を読み直してみても、この大子町は、人を引きつける魅力の詰まった町であることが分かります。そしてその土地を訪れ、山や川や滝の魅力に触れ、四季折々の特産品を味わうだけでなく、そこからえた感動を、一七音に託して残してくださったことに、改めて感謝する次第です。

最後になりましたが、こうした文化的事業を継続して推進して下さっている大子町の町長様、観光協会会長様、観光商工課長様始め、選句の労をお取りいただきました、今瀬剛一（俳誌「対岸」主宰）、小野瀬まこと（奥久慈俳句連盟顧問）、菊池珠枝（奥久慈俳句連盟顧問）、小口隆光（奥久慈俳句連盟会長）の各委員の皆様にも、心から御礼申し上げます。